

# きれいに暮らす 奈良県スタイルジャーナル

VOL.

12

2020 MARCH

奈良らしい  
景観を目指して



季節の花が植えられた常門会館前の花壇

# かずちょう 一町コスモス会



一町コスモス会 美化部長（写真右）  
**弓場 敬子**さん

一町コスモス会 副代表（写真中）  
**弓場 昭子**さん

一町コスモス会 代表（写真左）  
**中村 良子**さん

## 時代とともに走り続ける活動

町の自治会館周辺の花壇などに四季折々の花々を植栽する一方で、寄せ植え講習の出前講座を実施。ボランティアを募って町内の「浄國寺」にあるぼたん園の清掃に協力するなど、地域の美化に尽力して30年以上になります。

地域婦人会の1グループから、  
独立したボランティア組織へ

現在、一町の自治会館「常門会館」の前には花壇が設けられています。しかし会館が竣工した昭和63年当時、ここは今の姿からは想像もつかないごみ捨て場状態でした。「有刺鉄線で囲われて危ないし。誰もきれいにしようとしませんでした」とは、代表の中村良子さん。婦人会の会長としても各方面に働きかけるうち、朗報が。市から、「このスペースに花を植えてきれいにしてくれないか」と言われ、期待に応えたのが、婦人会内のグループ「コスモス会」。ごみ捨て場を花壇として再生したのが、花づくり活動のスタートです。

花づくりを始めた翌年、婦人会とは別組織に、『花づくりを通して優しい心、温かい思いやりの心を育て、潤いと安らぎのある地域に』というコンセプトのもと、平成元年10月、ボランティア団体としての「一町コスモス会」が誕生しました。

アマチュアとは思えない、  
本格的な栽培

新生コスモス会は、精力的に活動を展開していきます。県主催の大和路花いっぱいコンクールに参加し、平成4年の第6回から5年連続表彰。平成7



右：エコロジーを意識してフリーマーケットにも参加  
左：農家から休耕田を借りて葉牡丹を栽培



年には全国大会の農林水産大臣賞も受賞しました。さらに「審査員から熱心にアドバイスをしていただいたり、コンクールの常連さんと仲良くなつて、いろいろ教えてもらった」と、花づくり熱は高まる一方。

育てる花の種類が増え、栽培規模も大きくなると、あちこちの農業祭などから出店のお声がかかるように。「パンジー、ジュリアン、サクラソウ、キクなどを作っていました」とは美化部長の弓場敬子さん。

このほか、葉牡丹の栽培では、地元農家から休耕田1000㎡超を借りて、3000株以上を育てるという豪快さ。ボランティアや趣味の域を超えています。

### 広い視野を持って、地に足をつけた活動を

「あのころは突っ走ってました！」とメンバーが笑う時期を過ぎ、活動は随分と落ち着いたとのこと。今では、常門会館まわりの花壇などに四季折々の花を植栽して周辺を清掃する地域美化市内の婦人会や各種団体を対象にした寄せ植えの出前講座、町内にある浄國寺のぼたん園のボランティア清掃、こ

れらが活動の三本柱となつています。

出前講座は、広く市内に花いっぱい運動を広げようと始めたものです。コスモス会のメンバーが講師となつて、地区の公民館や近鉄大和八木駅前にある橿原市のナビプラザで開催。「私たちが先生だから、ホントの基本だけ」と言いつつ、20年以上も続く人気ぶりです。

ぼたん園の清掃では、「初めてのころは、毎月一軒一軒声をかけて回りました。清掃作業もさることながら、あそこまで足を運んで顔を出せるのは健康だということ。だから、顔だけは見せてね」とは中村さん。市内でも高齢化率が高い地区だからこそ、いつまでも健康でいてほしいとの思いが込められているようで、美化に留まらない意味合いもあります。

### 植栽活動以外でもメンバーたちは意気盛ん

近ごろでは、町内の農産物直売所のフリーマーケットにも参加しています。「不要品を安く買ってもらえたらごみ減量になって、環境にも良いし、直売所の集客にもなるしね」と。実は、これにはルートがあつて、橿原市内でもまだ珍し

かった朝市の「一町朝市」を開き、ごみの減量・リサイクルにも携わった経験が素地になつているとのこと。

花を育てて地域を彩ることはもちろん、環境のこと、高齢化のことも視野に入れた活動を展開するコスモス会。しかし、メンバーが高齢化してきたという大きな課題が。若い人に声をかけましたが、「がちりちり結束したグループには後から入りにくいって言われましたね」と副代表の弓場昭子さん。

「幸いなことに、花づくりや美化に携わるグループがいくつもできています。引き継げるものは引き継いでもらい、サポートさせてもらえれば」と、まだまだ意欲は衰えない様子。「個人的にはまだ元気ですし、人のお役にたちたいと思つています。手探りですけどね」とも。

コスモス会のまいた種が花を咲かせる前に、ひと花もふた花も咲かせそうな笑顔が印象的でした。





駅前ロータリーの花壇で花の植え付け作業

# 佐保台グリーンサポーター パンジークラブ・すみれクラブ



第3代会長(写真右)  
**森兼英治**さん

会長(写真中)  
**伊達厚**さん

設立メンバー(写真左)  
**中村正三**さん

## モットーは“無理せず・明るく・安全に”

このクラブは、発足時から各代の会長を中心に、奉仕の心に満ちあふれた多くの会員によって、成果を上げてきました。奈良県や奈良市のサポートがなければ活動を続けることはできなかったので、行政の支援にも感謝しています。

公園の美化を目的とした  
ボランティア団体の発足

「佐保台グリーンサポータークラブ」は、佐保台地区の3つの公園と周辺道路のごみ拾い、花植えなどの美化活動を行っています。クラブが発足したのは12年前。当時の自治連合会会長だった水本遼真さんが、公園の美化などを地域の団体に委託する奈良市の「グリーンサポーター制度」が始まることを知ります。これをきっかけに「我々も地域の団体をつくろう」という想いのもと、初代会長の平井隆三さんとともに、佐保台地区内に有志によるボランティア組織を立ち上げることに。佐保台第1号街区公園を活動拠点とし、「パンジークラブ」が活動をスタートしました。

活動が軌道に乗るまでの苦労  
ロータリーの花壇づくりも開始

登録初年度に交付される管理道具購入費及び物置購入費を利用して公園に倉庫を設置するとともに、刈払機や一輪車などの道具を購入。月2回の清掃から活動を始めました。

グリーンサポーター活動の開始直後、メンバーから「公園に隣接する駅前ロータリーの美化活動も行ってはどうか」という話が持ち上がりました。その頃、



上：佐保台第3号街区公園の花壇  
下：活動は会員の楽しみになっています

道路や河川などの公共施設の美化活動を行うボランティアを募る奈良市の「アダプトプログラム推進事業」が実施されることになり、新たに参加することになりました。当時は、鐘形の小さい花をたくさん咲かせる低木「アベリア」や雑草が伸び放題の状態。花壇づくりにおいて素人だったメンバーは、あちこちに腐葉土の堆肥をもらいに行ったり、各家庭からペットボトルを持ち寄って水やりをしたり、苦労を重ねながらも、第3代の会長を務めた森兼英治さ

んを中心に活動を継続。現在は、バンジーをはじめ、ピオラ、サクラソウなど色とりどりの花がバランスよく配置され、そのカラフルな花壇は地域に華やかな彩りを与えています。

### 堅苦しくないモットーで活動を続けやすく

それから1年後には、地区内で最も多くの子どもが利用する佐保台第3号街区公園の美化維持活動も始め、「す

みれクラブ」を立ち上げました。さらにその1年後には佐保台第4号街区公園にも着手。徐々に活動の範囲を広げていきました。「私が活動に参加し始めた時の公園は、足を踏み入れるのも躊躇するような状況でした。今では当時の面影もなく、整備された環境は、美観・防犯に役立っています。それは何よりも会員の地道な活動の成果だと思います」。そう話すのは、現在会長を務める伊達厚さん。この活動が評価され、平成26年には「すみれクラブ」が、平成27年には「バンジークラブ」が、奈良県から「クリーン・グリーン実践者表彰」を受けました。

クラブのモットーは、〃無理せず・明るく・安全に〃。会員の高齢化が進む中でも、会員数が減ることもなく、活動が続けられたのは、このモットーのおかげだといいます。

### 地域の未来につながる成果活動は会員の生きがい!

現在、会員数は60名を超えるものの、平均年齢は70歳以上。「活動の性質上、仕事を現役で続けている若い世代が会員になることは難しい。でも、うれしいのは、この地区で子供が増えている

ことです。若いご夫婦が環境の良さを評価して、新しく生活する場所として選んでくれるのは喜ばしいこと。佐保台小学校の校庭にある藤棚の剪定を行うなど、地域とのつながりも増えてきました。活動当初は、金銭面で苦労したり、大変なことも多かったのですが、会員全員で力を合わせて活動を続けてきて、本当によかったと思います」と会長の伊達さんは笑顔で話します。

取材日に行われた公園整備活動、ロータリーの花壇の植え替えも、終始笑顔が絶えず、和やかな雰囲気。このクラブでの活動は、会員にとって、生きがいの一つになっている様子。モットーの〃無理せず・明るく・安全に〃が、多くの会員数につながっていることを実感しました。

これから、ますます高齢化が進む中で、こんな団体が増えれば、地域が明るくなる。そう思わせてくれるクラブです。





フラワーロード沿いの花壇で花の植え付け作業

# にし ま み 西真美花の会



西真美花の会 元副会長  
**早瀬弘**さん



西真美花の会 会長  
**片山和栄**さん



西真美花の会 事務局補佐・自治会長  
**東野純一**さん



西真美花の会 事務局  
**田中ミチコ**さん

## 花も土も全て育ててまちを花いっぱい！

地区のメインストリートの美化を中心に四半世紀。存続が危ぶまれる時期も乗り越えてきました。これからも、「香芝の顔」としての自負を持って、「香芝はこんないい所だよ」とアピールできる活動を続けていきます。

自治会有志の心意気で、  
地域の美化活動が活性化

香芝市西真美地区を南北にまっすぐ走るフラワーロードは、この地区のメインストリート。およそ600m続く道路沿いには花壇が連なり、色鮮やかな花々が行き交う人たちを和ませています。ここで花苗の植え付けを行い、日頃の水やりや草引きなどの手入れを欠かさないのが「西真美花の会」の皆さんです。

会の発足は平成5年、地区の長寿会（老人会）の花の愛好家が、趣味と健康、町内の美化のためにと声を上げたのがきっかけでした。かつて副会長を務めた早瀬弘さんによると「新興住宅地でまだ殺風景だった頃で、ご年配の方が公園で自主的に花を植えていたんです。花にやる水を自宅から運んでいるのも大変そうだね。当時の自治会役員がそれを見て『みんな街をきれいにしよう』『お年寄りを助けよう』と行動を起こしたのが始まりです」。

翌年には市に依頼して、地域の3公園に花壇を設置。そこに植え付ける花苗の栽培も、市有地を借りて開設した花卉園で始まりました。やがて、道路沿いの低木を全て撤去し、跡地を花壇に。現在の街路のかたちができあがります。平成8年には、『西真美フラワーロード』の命名看板を設置。花卉園に



育苗用のビニールハウスも完成し、「花の会」の体制がほぼ整いました。

## 花が好きだからこそできる、こまやかな活動

取材にうかがったのは、ピオラの植え付け作業の真っ最中。総延長1km近い花壇に2列の畝を立て、約30cm間隔で苗のポットを並べて配置。穴を掘っては丁寧に植え付けていきます。「植えたときは間隔があいていますが、



上：花壇に設置された命名看板  
下：最近若い参加者も増えてきました

育ってくる」と一体になるんです」と、教えてくれたのは事務局の田中ミチ子さん。低木の街路樹が花壇に変わって

から「空き缶やたばこの吸い殻といったポイ捨てがすごく減りました。きれいにしているとゴミも捨てづらいうんどうでしょうね」とも。

フラワールードでの活動のほか、花弁園ではキク・ダリア・クジャクソウ・カスミノソウなどを栽培。地元の真美ヶ丘西小学校に花苗を提供し、一時は児童たちと植え付けをするなど、教育現

場のボランティアにも携わりました。こうした活動を長年続けたことが評価され、平成24年に奈良県から「クリーン・グリーン実践者表彰」を、平成26年には国から緑綬褒章（長年にわたり社会に奉仕する活動に従事し、顕著な実績）を授与されました。

## 存続の危機を情報発信で打破

植え付けの日にはメンバーのほか、自治会の役員やその家族の応援もあって総勢30名ほどが作業に参加しました。「年に2回の祭りみたいなもんです」という早瀬さん。多かったときには30名以上いたメンバーが、高齢化で次々リタイアし、現在は10名たらず。人手不足のため、小学校でのボランティアからも遠ざかっています。

「メンバーは減りましたが、会報を発行して認知度を上げたり、自治会でもバックアップして欲しいとお願ひして、多くの方が参加してくれるようになりました」。こう話すのは、事務局補佐で西真美地区自治会長の東野純一さん。積極的な情報発信を心がけ、若い参加者も増えてきています。

## 地域住民の意識を変え、理想に向かって前進

この情報発信が、新たな実を結びます。西真美2丁目のバス通り沿いの花壇はこれまで放置されていました。「先日、近くの住民の方が『花を植えて管理しましょう』と手を挙げてくれました」と、会長の片山和栄さん。「人通りも多いし、雑草より花を植えた方がきれいです。早速、花苗と土を届けに行きます」とも。

外へ向けての発信の一方で、現在、力を入れてるのが、花苗と肥料の自給自足。ポーチユラカを挿し芽で500株から3000株に増やしました。また刈り取った雑草を利用して、腐葉土作りにも挑戦しています。「花弁園を年中花が楽しめる場所にして、ここから西真美を花いっぱいにするのが理想です。今も菜の花とコスモスの季節は花でいっぱいになりますよ」と片山さん。その理想を現実にしていく日も遠くないようです。



# 彩りの庭だより ～春・夏の彩り～

奈良県内の彩りの名所を紹介します

佐保川沿エリア  
佐保川(奈良市)

桜  
見頃: 3月下旬～4月上旬



桜並木が眺望できる佐保川・奈良県図書館情報館付近  
(奈良県景観資産)

佐保川の兩岸に連なる桜並木。春には、桜が水面に映る風景や遊歩道の桜のトンネルを楽しむことができます。



飛鳥エリア  
上地区(明日香村)

棚田  
見頃: 7月～9月上旬



上(かむら)から見下ろす明日香の棚田  
(奈良県景観資産)

明日香の石舞台と桜井の多武峰を結ぶ峠道沿いに位置する上地区から、昔ながらの棚田風景を臨むことができます。



## 令和元年度きれいな奈良県づくり功労者受賞者が決定しました!

「きれいに暮らす奈良県スタイル」行動計画に基づく各主体の実践活動を促進し、全県的・継続的な県民運動を誘発・普及していくため、行動計画の推進に貢献している団体等に対して「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会会長(奈良県知事)から令和2年1月24日に表彰されました。

### ■受賞者一覧(14件、敬称略)

#### 【川のきれい化部門(3件)】

・地域交流 空間エンジェル・奈良市六条校区自治連合会・大和川水域河川漁業協同組合

#### 【循環型の生活スタイル部門(2件)】

・橿原市地球温暖化対策地域協議会・奈良市立月ヶ瀬中学校

#### 【景観づくり部門(1件)】

・グリーンボランティア「いこま宝の里」

#### 【景観づくり部門(奈良らしい良好な景観を形成する広告物)(3件)】

〈歴史的景観部門〉・藤井利三郎薬房(株式会社藤井利三郎薬房)

〈沿道部門〉・まほろば大仏プリン本舗プリンの森カフェ(株式会社大仏プリン、有限会社アイポリー、株式会社ビーライフ級建築士事務所)

〈商業地・駅周辺部門〉・tonarie大和高田(株式会社日本エスコン、株式会社スペース、有限会社永山祐子建築設計、村本建設株式会社)

